

『全ての人にやさしい学校』になるために...

障害のある人もない人も同じ様に人権が保障され、教育や就業、その他の社会生活において平等に参加する機会が与えられなくてはなりません。皆が社会で平等に暮らせるようになるために、それぞれの困難に合わせて環境等を整えることを「合理的配慮」と言います。モンゴルの学校でも少しずつそうした取り組みが見られるようになりました。

ウランバートル市第28学校では、9年生と12年生からの卒業時の寄付を毎年何に活用しようか教員たちで協議をします。昨年は、植樹をしましたが、今年は『全ての人にやさしい学校』になることを目指して、校内環境整備を行うことにしました。

具体的には、(1)校舎の出入りにスロープ、(2)トイレに手すりとフック、(3)7か所(①食堂、②トイレ、③図書室、④パソコン室、⑤体育館、⑥音楽室、⑦保健室)の出入口の壁にピクトグラム(言葉のないガイド)を設置しました。

		
<p>校舎の出入りにスロープ</p>	<p>トイレに手すりとフック</p>	<p>トイレのピクトグラム</p>
		
<p>保健室のピクトグラム</p>	<p>食堂のピクトグラム</p>	<p>体育館のピクトグラム</p>

卒業生から材料代を寄付してもらい、教員たち自身が作成・設置しました。室内札の設置については、以前バヤンゴル区社会開発課より設置推奨があり、取り組むことにしまし

た。

Ms. Oyunbileg 中学部学習マネージャーは、工夫した点について「スロープと手すりの設置の際は、怪我をしている子どもや知的障害のある子どもを連れてきて、実際に当事者の意見を聞きながら作業をしました。また、室内札については、JICA 障害児のための教育改善プロジェクトメンバーから助言を受け、遠くからでも何の場所か分かるように壁に垂直に取り付けました。」と話しました。スロープや手すりの設置は、美術の教員がデザインを行い、室内札のデザインについては、誰が見ても分かり易いデザインになるよう、教員皆で話し合いました。

設置後、来校した保護者からは、「子どもだけではなく、高齢者にとってもやさしいデザインですね。」という反応がありました。第 28 学校の子どもたちからは特にトイレの手すりについて、「すごくいい」という感想が聞かれました。

評判は上々である一方で、2つあるうちの1つのスロープについては更なる調整が必要であったり、トイレの手すりや教室の室内札はまだ一部の場所にしか設置できていなかったりする状況があります。今後も引き続き、校内整備を進めていく予定です。

また、第 28 学校には、以前車イスの子どもが在籍していたこともあります。実際に車イスの子どもを受け入れてみると、トイレのドアが小さいことや教室と教室との間にある段差が課題になることが分かりました。これからも車イスの子どもをいつでも受け入れられるように環境を整えていきます。こうした環境整備は、なにも障害のある子どもだけを対象としたものではありません。例えば、トイレにある手洗い場の蛇口を一つ下の方に設置しましたが、これは、車イス利用者だけではなく、背が低い下級生にとっても非常に有効なものです。



『全ての人にやさしい学校』になるために、第 28 学校は今後も地道な取り組みを続けていきます。

JICA モンゴル国障害児のための教育改善プロジェクト

2015 年 8 月、モンゴル教育文化科学省(現:教育・文化・科学・スポーツ省)と人口開発社会保障省(現:労働・社会保障省)の要請に基づき、JICA は「障害児のための教育改善プロジェクト」(START プロジェクト)を開始しました。

このプロジェクトは、2019 年 7 月までの予定で、「障害の早期発見、子どもたちに対する発達支援や教育のモデルを構築すること」を目標に活動をしています。

障害の有無に関わらず、一人でも多くの子どもたちが質の高い教育を受け、社会の中で平等に生活していくことができるようモンゴル側関係者とともに取り組んでいます。

プロジェクト連絡先

○教育・文化・科学・スポーツ省：
政府庁舎 3 号館 212 号室
電話：976-9424-0702

○労働・社会保障省：
リハビリテーション研修職業センター 228 号室
電話：976-8634-0702

○メール：jica15start@gmail.com

○プロジェクトウェブサイト：
<https://www.jica.go.jp/project/mongolian/mongolia/O13/index.html>